

海外研修報告書

研修医 2 年 中塚 騰太

2015 年 10 月 30 日から 11 月 28 日までの 5 週間弱の期間、ミュンヘン大学(Ludwig Maximillians University)附属病院の Klinikum Grosshardern の麻酔科で研修をさせていただきました。

Klinikum Grosshardern はヨーロッパでもトップクラスの規模を誇る病院で、麻酔科医が ICU を含めて 200 人以上おり、手術件数も年間約 50000 件で、移植手術も盛んに行われています。麻酔科は手術麻酔と ICU を担当しており、手術麻酔では各科それぞれに専属の麻酔科チームがあり、ICU は 4 つもある非常に規模の大きい環境です。

毎朝 7 時 30 分からモーニングカンファレンスが始まり、その後手術室の方に行き、導入時、手術時の麻酔、手技や手術を見させていただきました。手術室は新築で窓がついており、外の景色も見られ開放感のあるつくりになっていました。手術の様子は壁に取り付けられたスクリーンに映るようになっており、麻酔器からの位置でも術野が大きく見えるようになっていました。また手術と導入麻酔を行う部屋は別の場所で行い、導入麻酔室が手術室の向かいにあり、次手術を行う患者さんに導入麻酔を行っていました。施設のつくり、麻酔方法、移植手術等、同じところや違ったところを発見でき、素晴らしい経験ができたと思います。設備の規模やシステム等の違いもあるため、なかなか日本で実践することが難しいところもありますが、自分でも参考にしたいと感じたのはスタッフ間のコミュニケーションです。処置や手術中、スタッフ同士で頻りに声を掛け合い、分からないことがあればすぐ質問し、全員で状況を把握するようにしていました。コミュニケーションをしっかりすることで、安全性や雰囲気向上、時間の短縮等様々なメリットがあります。私も実践できるように心がけていきたいと感じました。

ミュンヘンは約 25%が外国人で多国籍な都市であり、ほとんどの人が英語を話すことができました。病院での研修中、私の下手な英語でも真剣に聞いてくれて、話すときはゆっくり話してもらい、何とかスタッフとコミュニケーションをとることができました。

私たちが滞在したホテルは地下鉄の駅の前で、ミュンヘン市内中心まで 5 分程、病院まで 10 分程の移動しやすい場所にしました。11 月のミュンヘンでしたが、例年にない程暖かい時期だったようで、外にも出かけやすかったです。

休日にはバイエルン・ミュンヘンのサッカー観戦や郊外への観光に出かけることができ、またミュンヘンの麻酔科医に食事に連れて行ってもらったり、市内の案内をしてもらったり、非常に楽しい時間を過ごすことができ、病院内外共に貴重な経験ができました。

今回、海外研修に行かせていただくことができたのは、当院麻酔科の藤田喜久教授、臨床教育センターの方々、川崎医科大学に関わる全ての方のおかげです。皆様のご協力の下、無事に充実した海外研修をやり遂げることができました。心より感謝いたします。

